

イベント箱

※印の付いた行事等はサポーター向けのものです。

2022 5 皐月	1 (日)	2 (月)	5 (木)	5/10 (火) まで
	※ イベントチーム 会議 10:00 ~	※ 環境整備 チーム会議 13:30 ~	端午の節句・鯉のぼり作り 9:30 ~ 11:30	鯉のぼり・ 五月人形展示
早月 (さつき) とも言う。 早苗 (さなえ) を植える月。	11 (水)		18 (水)	28 (土)
	※ 調整会議 10:00 ~	※ 運営会議 17:00 ~	※ 常勤者会議 13:30 ~	※ クリーンデー 9:00 ~
	サポーター研修 昔遊び 13:00 ~ 15:00 14 (土)	昔遊び体験教室 13:30 ~ 16:00 28 (土)	綿工房 10:00 ~ 11:30 サポーター講習会含む 6 (金)、13 (金)、20 (金)	わら工房 10:00 ~ 11:30 サポーター講習会含む 12 (木) 19 (木)

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					



新倉ふるさと民家園だより

編集・発行 和光市古民家愛好会 情報活動チーム

令和4年

5月号

民家園のこれからの活用の仕方

発展的なアイデアで民家園の活用を

会長 星野裕司



新倉ふるさと民家園は平成18年6月17日に開園して以来、早や16年が経過し、市内外のたくさんの来園者がありました。この間、新倉ふるさと民家園が大勢の人々に愛され、そして民家園を活用して地域住民のコミュニティが育ってきたことを大変うれしく思います。

旧富岡家住宅が、300年以上前の享保年間に建築された当時の新倉の上之郷や、半三池地区においては、交通の主役が新河岸川の舟運でした。その当時は新倉村の玄関口として、とても経済が盛んな地域であったと言われております。更に遡れば縄文時代、弥生時代の住居跡や土器がたくさん出土している地域です。歴史を辿ればこの地域の文化が、どれほど我々住民に潤いをもたらされてきたことでしょうか。今では新倉ふるさと民家園は、和光市の公共施設という位置づけとなり、それらの当時を偲びながら保存され、維持されていくということはとても意義のあることだなと感じています。

たくさんの方々に さまざまな利用を

どの時代でも、地域コミュニティが重要であることは、皆さん共通した認識を持たれていると思います。昭和24年当時、上之郷の家は27戸、半三池が22戸という少ない戸数でしたが、地域のつながりは深いものだったと聞いています。また、ほとんどの家が藁葺屋根でした。その中で、こうして移築され再び蘇って保存されていることは、とても意義のあることです。私は、現代まで保存されている

旧富岡家住宅を、たくさんの方々に活用をさせていただくために、民家園はさまざまな利用の仕方があると思っています。伝統的季節行事や文化行事以外の「古民家愛好会が計画し、実施する行事」についてはサポーターが、直接運営することで今まで成り立っていました。しかし、さまざまな困難な壁がありながら企画実施してきたことも事実です。

企画運営する側が実施

そこで、令和4年度からはこの「愛好会計画行事」のやり方については、サポーター会員が民家園外の団体に所属しているような場合や、サポーター個人でも企画運営書を事前に提出いただくことで、場所貸しのイメージに近いような形で、民家園を活用できる形にしたいと考えております。ある程度の幅を持って企画内容を審査していきたいと思いますが、新倉の歴史的に合っていないから実施できない、というようなものにはしたくないと考えています。現代文化のもので、コミュニティに役立つようなものであれば、企画運営する側の責任において実施していただき、その中でサポーターが、準備や当日に協力する、というような方式にしたいと考えております。

新倉ふるさと民家園は、皆さんの税金で保存・管理されているものですので、様々な活用の仕方のできることをやっていく、それが今後、地域を盛り上げていく方策のひとつだと考えております。

皆さんも発展的なアイデアで民家園の活用の仕方を考えてみていただければと思います。

鯉のぼり作り (愛好会計画行事)

折り紙で鯉のぼりを作ります。

(小学生以下の申込者が来園)

日時 5月5日(木・祝) 午前中

申込み 5月2日(月)のみ24時までメールで受付
(住所・氏名・参加人数を明記のこと)



5/28
(土)
9:00am ~

クリーンデー
にご協力を

●一般のサポーターの方も、帽子、長袖上着、手袋持参で汚れてもいい服装でご参加ください。

令和4年度 和光市古民家愛好会 定期総会

5月25日(水)
午後2時から
中央公民館2階
会議室1

※今年度もコロナ対策として総会後の懇親会は行いません。当日出席者には、開園15周年記念品(サポーターガイドブック、民家園カード、缶バッジ)の配付を予定しています。



新倉ふるさと民家園ホームページ

メールアドレス

niikura-kominka @ nifty.com

麦秋祭 予告 6月19日(日)

例年とは異なり、次の内容での実施を予定しています。

○じゃがいも販売、○伝統技術披露&体験 [わら・綿]、○昔遊び体験 [けん玉検定、こま技検定]、



○オリジナルベーゴマ作り [色付]、○スタンプラリー、○子どもじゃがいも掘り体験 (事前申込制)

昔の農家の道具②

鍬



鍬と一口にいってもその種類には様々なものがあります。平らな1枚刃で構成されたものが平鍬で、肉厚で丸みを帯びた刃を持つものが唐鍬。そして、刃がフォークのように3本や4本に分かれているのが備中鍬です。また片手で扱える小型の片手鍬などもあります。

それぞれの用途を簡単に分類すると、畑を耕したり、土寄せ、畝立てをしたりするには平鍬が向い

ており、備中鍬や唐鍬は固い土の掘り起こしや開墾、整地などに適しています。そして片手鍬は軽作業や園芸などに向いているとされています。

使い方は、鍬は力いっぱい振り下ろすのではなく肩ぐらいまで持ち上げたら重さを利用して土に刃先を入れます。鍬が入ったら土を削る感覚で立ったまま後退しながら手前に引いていきます。これが「引き鍬」という基本動作です。引き鍬によって土を耕したり、土寄せや除草をしたりすることで身体に負担がかかりにくくなります。

昭和時代の初めごろまで農家の田んぼや畑を耕す道具はこの鍬が主流でした。新倉の農家ではこの鍬を竹籠に入れ背負って田んぼや畑まで出かけ、野地を整備して帰りには竹籠に野菜を入れて帰ってきました。昔の農業というのはこのようにすべてが人力で畑を耕し掘り起し整地して種を植えてといった重労働であったと聞いています。(星野)

新倉の昔の子ども遊び シリーズ①

缶蹴り



伝承遊びとは、日本の伝統的な遊びのことです。代表的な例としては、鬼ごっこやかくれんぼ、折り紙などが挙げられます。多くの子ども同士の遊びの中で親しまれている伝承遊び。その特徴は、複数の人数で行う遊びが多いことです。もちろん、中には一人遊びができるものもありますが、ほとんどは2～10人でも遊べるような内容になっています。

缶蹴りの遊び方

- ① 地面に円を描き、その中に空き缶を1つ置く。
- ② オニを1人決め、子の1人が空き缶を思い切り蹴飛ばす。
- ③ オニが空き缶を拾って元の位置に戻すまでに、子は建物や樹木に隠れる。
- ④ オニは隠れている子を探し出し、みついたら「〇〇くんみつけた!」と言いながら空き缶を踏む。みつけれられた子はオニに捕まり、円の中で待つ。
- ⑤ オニが全員をみつければできたら、初めに

捕まった子とオニが交代する。

- ⑥ オニが探し回っているうちに、子は円に走り込み、空き缶を蹴ろうとする。成功したら、捕まっている子は逃げる事ができ、再スタート。

缶蹴りで学ぶ社会のルール

伝承遊びは複数人で遊ぶものが多いため、友だちとのコミュニケーションが増える、というメリットもあります。ときには、子ども同士が衝突し合う場面もありますが、こうした体験も子どもの成長には欠かせません。私も小学生の頃、新倉 氷川八幡神社の境内で仲間7、8人で缶蹴りをよくしたものです。幼稚園児や低学年の子供はオミソと言って、特に鬼にならせずに一緒に遊んであげました。

当然小学生の頃は体力差が大きいので、ある程度のハンデをつけなければいっしょには遊べません。しかし、仲間として異なる学年の子どもたちが一緒に遊ぶことで、とても良い社会勉強に繋がっていたのだなど、今はつくづく感じています。小さい時には優しく守られ、逆に上級性になったら下の子に優しくし、仲良く遊ぶことで社会のルールを缶蹴りから学んでいたのかもしれない。

今の子どもたちは、携帯ゲームで遊ぶばかりではなく、一緒に目と目をつきあわせ、体と体で体験的に遊ぶということが、とても大事ではないかと思えます。そこに私たち民家園の大人たち(サポーター)が地域社会に果たす役割があると感じています。

民家園の達人紹介

第3回



今月は
田窪 勝さん
(前副会長)

毎週、横浜に通って...

因島と言っても余り馴染みがない方が多いと思いますが、瀬戸内海国立公園の中にある周囲60キロメートルほどの比較的大きな島、これが私のふるさとです。

日立造船の大きな工場があるほか、ミカンなどの柑橘類の栽培が主な産業です。かつては、村上水軍の大きな根拠地の一つとして名を馳せた島でもあります。そこで、私は育ちましたが、残念ながら、水軍(海賊?)の子孫ではありません。

元々の出身地は愛媛県今治市で、戦後に因島

に移り住み、私が大学生の頃まで映画館をやっていました。当時は映画が娯楽の中心で、お正月などは、人で溢れ、切符売場の姉など鼻血を出すほどでした。

テレビが普及するに及んで、斜陽化した映画館をたたんだのが私の兄でした。キリスト教に改宗したのは、この兄からです。映画館をたたむにあたって兄には大きな葛藤があったと思います。それを踏み切らせてくれたのが、島の教会の牧師さんでした。それから家族がキリスト教に改宗したのです。

しかし、私を信仰に導いたのは、兄ではなく、大学時代からの友人でした。彼の勧めで和光の教会に通い始め、そこで洗礼を受けたのです。兄は、これをとても喜んでくれました。そして、この教会の牧師先生の紹介で、和光市に勤め始め、教会で家内とも出会ったのです。家内の家は親類縁者が皆クリスチャンで、家内の父親も牧師でした。その父も先年亡くなり、今は、私か牧師代行として横浜の教会を保っています。

こうした事情もあり、運営委員を辞するなど、これからもご迷惑をかけることが多々あると存じますが、今後とも、よろしく願います。

運営委員会報告

4月16日(土)午後2時から、和光市古民家愛好会の運営委員会が開催されました。主な議題は次のとおりです。

- 1 報告事項
 - 4月活動状況、連絡調整会議報告、情報活動チームリーダーの交替について…新リーダー内山氏
- 2 協議事項
 - (1) 諸機材運搬等謝礼の支給方法の見直しについて…月額制を廃止、1回ごとの支払に
 - (2) ゴミ出しの追加手段について…シール購入

(3) 令和3年度事業報告、決算及び令和4年度事業計画・予算案について…予算科目の見直し

(4) 総会での運営委員の役割分担について
3 チーム報告 環境整備・情報活動・イベント各チームから報告

- 4 その他
 - (1) 開園15周年記念品等について
サポーターガイドブック、缶バッチ、民家園カードが完成。総会時に会員に披露する。
 - (2) 整理整頓について…主屋の収納も活用する。

※くわしくは、ホームページをご覧ください。